

令和4年度
利用者インタビューによる各団体からの
聞き取り調査報告書

令和5年3月
久留米市

目 次

1	調査の概要.....	3
	(1) 利用者インタビューの目的.....	3
	(2) 実施要領.....	3
2	調査結果.....	4
	(1) 菜の花【介護予防自主活動グループ】	4
	(2) 御井宗崎老人クラブ【老人クラブ】	7
	(4) さわやか大善寺宅老所よあけ【介護サービス】	15
	(5) 認知症カフェ YYY【認知症カフェ】	19
	(6) 田主丸美術協会【文化サークル】	23

1 調査の概要

(1) 利用者インタビューの目的

この資料は、「久留米市第9期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」策定に先立ち、地域の関係団体等の利用者に対して、活動の課題、高齢者の困りごと、今後必要な取り組みについてインタビューを行い、計画策定のための基礎資料とすることを目的とする。

(2) 実施要領

① 実施方法

久留米市の担当者が対象団体の活動場所を訪問し、インタビュー形式で参加者から聞き取りを行った。

② 対象団体

日時	活動場所	団体名
令和5年2月7日 11:00～	野中生涯学習センター 【中央圏域】	菜の花 【介護予防自主活動グループ】
令和5年2月8日 13:30～	宗崎公民館 【北圏域】	御井宗崎老人クラブ 【老人クラブ】
令和5年2月14日 12:30～	旧JAくるめ安武農産物直売所そらまめ 【西圏域】	ほんによかね会 【有償ボランティア】
令和5年2月16日 13:30～	よあけデイサービス 【西圏域】	さわやか大善寺宅老所よあけ 【介護サービス】
令和5年2月18日 10:00～	友カフェ 【北圏域】	YYY 【認知症カフェ】
令和5年2月20日 14:00～	田主丸アリーナなど 【東圏域】	田主丸美術協会 【文化サークル】

2 調査結果

(1) 菜の花【介護予防自主活動グループ】

期日：令和5年2月7日 11:00～

場所：野中生涯学習センター

《ポイント》

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

- ・市広報誌や知り合いからの紹介がきっかけで、市が開催していた教室型の講座の参加者同士で団体を立ち上げ、活動を始めた。
- ・体を動かさないといけないと思った。友人からの紹介。

【参加して感じていること（効果）】

- ・自宅では動かず、じっとしていることが多いが、ここに来て運動することで、つまづくことも減り、体力の改善につながっている。
- ・ステップ台を家に持って帰ったが、結局家ではしなかった。みんなでやるのがいい。
- ・様々な年齢の方がいて、お互いの趣味や他の活動の情報交換の場にもなっており、いろいろな話が聞けるのが楽しい。
- ・コロナ禍で人と話す機会や会う機会が減ったので、この活動は貴重だと思う。

【活動にあたっての課題】

- ・新しく参加する人がなかなか増えない。教室型の活動の参加者が継続されないのが残念。
- ・会場を30分単位で借りられたり、何回分かまとめて申込みできると良い。
- ・費用の面で負担感がある。会場使用料や空調代に補助があるといいと思う。
- ・ステップ運動をする際に、しりとりやおしゃべりをしながら取り組んでいるが、「運動するだけの方がいい」という方がいて、活動もやめられてしまった。

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

- ・近所の慣れた場所で活動できるのが良い。
- ・少ない人数で、人柄が分かっているから継続できているのだと思う。
- ・教室型の活動に参加している方が、自主的に活動している団体の活動にも参加してもらえるように、積極的に声掛け、PRが必要。見学や体験に来てもらうのも良いと思う。
- ・教室型の活動でも、運営スタッフが準備から片付けまで、全てしてしまうのではなく、参加者に役割を持たせた方が、その後の自主的な活動につながっていくので良いと思う。

【コロナ禍の活動への影響】

- ・広い部屋でマスクを着けて運動していると、音楽と人の声を聞き取るのが難しく、聞こえにくいことがストレスで活動を止めようと思った。
- ・せっかく集まっているから、いろいろな話をしたいが、コロナだから施設のロビーではなく、外で話すようにしている。

《聞き取り内容》

【活動内容】

- ・毎週火曜の10時～11時 5～6名参加。
- ・市の講師派遣型を利用している。
- ・準備体操と整理体操の担当者を決めて、役割分担して取り組む。
- ・ステップ運動をしながら、なぞなぞやしりとりをしており、毎回工夫してやっている。
- ・看護大学生の実習も受け入れているが、若い人が参加してくれると楽しい。
- ・補助具を使えるから、続けられている。

【参加状況】

- ・活動して1年ぐらいになる。
- ・みんなほぼ毎週参加している。他に予定がない限り、参加するようにしている。
- ・医師からも筋力をつけた方がいいと言われ、参加を続けている。

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

- ・野中生涯学習センターの「にこにこステップ教室」の参加者が団体を立ち上げて始まった。
- ・教室型に4～5年参加していたが、その参加者で団体での活動を始めた。
- ・教室型に参加したきっかけは、市広報誌や知り合いからの紹介。
- ・友達（ゴルフ仲間）から誘われた。
- ・家では動かないので、体を動かさないといけないと思った。

【参加して感じていること（効果）】

- ・単純な運動だと思って始めたが、意外と良い運動になる。
- ・家の中では動かず、じっとしていることが多いが、ここに来ることで運動ができる。
- ・段差につまずくことが減った。
- ・普段の生活では、なかなか足があがっていないが、ステップ運動では意識的に足をあげるから、とても良いと思う。
- ・以前は休みながらしていたが、いまでは10分間ステップ運動できるようになった。
- ・筋力がついた。
- ・足を捻挫したが、そのリハビリも兼ねている。
- ・ステップ台を家に持って帰ったが、結局家ではしなかった。みんなでやるのがいい。
- ・家では運動しないので、こういった活動が継続してできた方がいい。
- ・皆さん良い方達で、よくしてもらっている。参加するのが楽しみ。
- ・みんなとおしゃべりするのが楽しい。
- ・様々な年齢の方がいて、いろんな話が聞けるのが楽しい。
- ・お互いの趣味や他の活動の情報交換の場にもなっている。
- ・コロナ禍で人と話す機会や会う機会が減ったので、この活動は貴重だと思う。
- ・少ない人数で、人柄が分かっているから継続できているのだと思う。

【活動にあたっての課題】

- ・新しく参加する人がなかなか増えない。参加される方がもっと増えたらいい。
- ・教室型の参加者が継続されないのが残念。
- ・ステップ運動を、しりとりやおしゃべりをしながら取り組んでいるが、「そういうのはいらない、運動するだけでいい」と言う方もいて、活動もやめられた。
- ・施設使用申し込みを、いまはその都度やっているが、まとめてできるといい。
- ・施設の利用について、鍵を借りる時も返す時も、時間どおりにするようと言われる。
- ・30分単位で借りられると良い（いまは1時間単位）。
- ・介護予防の活動を継続するのに、施設の利用が有料なのはハードルである。無料の方が、もっと参加しやすい（参加者は一人当たり年間3,000円ぐらい負担している）。
- ・施設の空調代が負担。団体活動する際に、会場使用料や空調代に補助があると良いと思う。

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

- ・教室型に参加している方が、自主的な団体の活動にも参加されるように、積極的に声掛けをした方がいい。
- ・団体をPRできる場があったらいい（教室型からの継続を増やしたい）。
- ・見学や体験に来てもらえたらいい。
- ・参加者が10人ぐらいまでだったら受け入れることができると思う。
- ・自分たちだけでは、人を誘いづらい。
- ・教室型では、遅刻しても、自分のステップ台が用意されている。準備から片付けまで、手取り足取りしてあるので、もっと参加者に役割を持たせた方がいい。
- ・市が無料で、なんでもしてくれたから参加しやすかったが、それだけでは、自分たちだけで活動して、有料にもなると（負担感から）参加しなくなるのではないか。
- ・教室型のうちから、自分たちで準備や片づけをするといった意識を持っていた方が、団体活動へもスムーズに移行できるのではないか。
- ・慣れた場所や近くで活動できるのが良い。

【コロナ禍の活動への影響】

- ・広い部屋でマスクを着けて運動していると、音楽と人の声を聞き取るのが難しく、聞こえにくいことがストレスで活動をやめようと思った。小さい部屋で、少人数でやると、だいぶ聞き取りやすく活動しやすくなった。少ない人数で、人柄が分かっているから継続できているのだと思う。
- ・施設のロビーで話していたら、コロナ禍のため施設の方から注意されたので、その後は外で話すようにしている。
- ・せっかく集まっているから、いろんな話をしたいが、制限されているようにも感じる。

【その他・自由意見】

- ・マスクをしていると、足元が見えにくく、慎重に歩かないといけない。
- ・いまは、テレビに字幕が増えたから見やすい、一方で字幕ばかりで煩わしいと思うこともある。
- ・高齢者なので、いつ誰が倒れるか分からない。AEDの使い方等の講習を受けたい。

(2) 御井宗崎老人クラブ【老人クラブ】

期日：令和5年2月8日 13:30～

場所：宗崎公民館

≪ポイント≫

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

- ・会員の方からのお誘い。
- ・女性の会の方から役員になってくれと言われて参加し、その流れで老人クラブに入った。
- ・仕事を辞めてすぐは趣味などしたいことがあり、最初は断っていたが、5年ほど経ってそろそろ入ろうかなと思い参加した。

【参加して感じていること（効果）】

- ・地域の新しい人とのめぐり逢いがあり、体操をしたり、話をして気持ちが晴れる。
- ・ここに来れば何か楽しみがあると思える。入れて本当によかったと思う。
- ・料理を教えてもらったり、一緒に食べたりできたのも良かった。

【活動にあたっての課題】

- ・若い人が入ってこないため、お世話をする方が少なくなっている。
- ・70歳まではまだ若いという認識があり、仕事をされている方も多いので仕方ないと思うが、活動も活性化と思うので60代後半の方にぜひ入ってもらいたい。
- ・歳を重ねると、友達が亡くなったり、病気をしたりで一緒に遊べる仲間が少なくなる。もう少し若い時に年下の人と友達になっておけばよかったと思う。老人クラブにも、もっと若い人が入ってくれば、年の離れた人とも話しができて将来寂しくないように思う。
- ・男性の参加が少ない。何か役をしなきゃいけないと思いき、入らない人もいるように思うが、役をすることによりいろいろ考えることもあっていいこともある。
- ・老人というネーミングが嫌だといわれ、変えてみたが入らない人は入ってくれない。
- ・住んでいるところに近いから嫌という方もいる

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

- ・会員増強月間に、回覧などで声をかける予定。
- ・夏祭りなど多世代が集まる機会やパタンク大会などの際に、周知や勧誘を行ったり、それぞれが趣味の活動を通して若い人とのつながりをつくり、勧誘につなげる。
- ・活動が楽しいことを伝える。

【コロナ禍の活動への影響】

- ・コロナの時は活動も短時間や中止にしたり、マスクや手洗い、食べ物を持ち帰るなどの制限をしている。去年の夏まつりは「わっしょい」などの声出しをせず、笛で行った。
- ・安否確認を兼ねて訪問活動を行った際には喜んでもらった。

《聞き取り内容》

【活動内容】

- ・毎週水曜に10人前後で1時間程度体操（ラジオ体操やお口の体操など）を行っていた。そのあとにお菓子を持ち寄り、食べながら話をする場があった。（コロナ前）
- ・2、3か月休んだが、コロナ禍の中でも体操だけは行っていた。
- ・ペタンク大会の実施。40人くらい集まる。コミセンは遠いので、近くの公民館が活動しやすい。
- ・歌を歌ったり、踊りを踊ったりで集まっていた。
- ・夏祭りで神輿担ぎがあり、子どもと一緒にイベント（食事の準備などの手伝い）。そうめん流しも竹から準備し、行っていた。老若男女が協力して実施。
- ・コロナの前は年に2回料理（カレーやだご汁）を行っていた。（40数名参加）
- ・食事会があった時にギターを弾く人がいたため、生演奏をしてもらった。
- ・みんなで100円ずつ貯金し、月に2回程度食事に行っていた。
- ・シニアアート展をみんなで見に行き、食事に行くなどしていた。
- ・会費は年600円。
- ・11月に久しぶりにバスで温泉や神社を見てまわるなどの活動を行い、20名以上の応募があった。

【参加状況】

- ・年に数回集まっている、圧倒的に女性が多い。
- ・体操教室の活動は週一回で、現在11名。
- ・（声をかけても）出てこない方もいる。

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

- ・会員の方から入らないかと誘われて入った。
- ・仕事を辞めてすぐは趣味などしたいことがあり、最初は断ったが、5年ほど経ってそろそろ入ろうかなと思い、参加した。
- ・女性の会の方から役員になってくれと言われた。女性の会から参加し、流れで老人会に加入した。現在、女性の会と老人会どちらも活動している。
- ・集まりがあるところで、知り合いに誘われた。

【参加して感じていること（効果）】

- ・地域の新しい人とのめぐり逢いがあり、入れて本当によかったと思う。
- ・知り合いが増える。皆さん穏やかで、いい人が多い。
- ・話す機会があり、気持ちが晴れる。入れば楽しいとは思っている。
- ・体操して話すとみんなすっきりして、笑顔で帰る。もっと活動があればいいなと思っている。
- ・料理を教えてもらった。
- ・一緒に食べたりできるのも良かった。
- ・ここに来れば何か楽しみがあると思える。

【活動にあたっての課題】

- ・お世話をする人が少なくなっている。
- ・若い人が入ってこない。
- ・70歳までは、まだ若いという意識がある。なかなか誘えない。
- ・仕事をされている方も多いので仕方ないと思うが、活動も活性化と思うので60代後半の方にぜひ入ってもらいたい。
- ・高齢者の意識改革が必要、100歳までは生きると思う。それを認識していない人が多い。友達が亡くなったり、病気をしたりで一緒に遊べなくなると仲間が少なくなる。もう少し若い時に年下の人と友達になっておけばよかったと思う。老人クラブにも、もっと若い人が入ってくれば、10歳上、10歳下の人と話せて将来寂しくないように思う。
- ・男性がもっと入ると良いが、参加が少ない。何か役をしなきゃいけないと思いき、入らない人もいるように思う。役をすることでいろいろ考えることもあっていいこともあるのだが。
- ・老人というネーミングが嫌だと言われたが、名前を変えても（「ボンジュール」に変えたが）入らない方は入らないようだ。
- ・楽しい、勉強にもなる。アピールはしているが、なかなか入ってもらえない。
- ・誘われていないから入らないという方もいる。
- ・住んでいるところに近いから来ない人もいる。

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

- ・1月～3月が会員増強月間なので、回覧などで声をかけるつもり。
- ・夏祭りなど多世代が集まる機会に、子どもを通じて活動を行う。
- ・ペタンク大会などを実施する。
- ・老人クラブは楽しいことが大事。楽しくないと老人クラブではない。楽しいことを伝えられれば良いのではないかな。
- ・クラブの役をすると自分自身の健康維持に効果があることを知らせる。
- ・趣味を通して若い人とのつながりを作るべきだと思う。
- ・独り身の人がたくさんいて、話す機会が無い人もいると思うのでその人のためになればいい。

【コロナ禍の活動への影響】

- ・コロナにかかると高齢者は重篤化するため、開催を心配する。批判がでるのも怖いため、コロナの時は取りやめや中止にしている。今も活動は制限中。
- ・マスクや手洗いなどは気をつけている。
- ・一人住まいの方には安否確認も兼ねてお菓子をもち、2回ほど家を回った。メッセージを残したりもして喜ばれた。
- ・正月に新年会で集まれなかったため、干支のお菓子を配った。久々に会えて喜んでもらった。
- ・行事を短時間で（2時間のところを1時間に）、食べ物をもち帰りにするなど。
- ・去年の夏まつりは「わっしょい」などの声出しをせず、笛を使ったりして行った。

【コロナ禍で困ったこと、必要な取り組み】

- ・盆正月にも子や孫など家族に会えなかったのが1番辛かった。
- ・家族も感染したので、他の人に移さないように気を使った。
- ・外に出ることが少なくなった。
- ・友達と遊ぶことが少なくなった。
- ・体力がだいぶ落ちたように感じる。
- ・社協の車が時間限定でしか借りられなかった。

【その他・自由意見】

- ・介護保険を受ける程ではないが、弱った方が受けられるサービス、教室などの広報、発信が必要。
- ・バスで日帰り旅行を行っているが、老人クラブでバスを借りるのに市が補助をしてくれるなどといった、移動手段の補助や仕組みを考えてほしい。
- ・社協から車（バス）を借りることはできるが、なかなか予約が取れない。車を増やしてほしい。
- ・元気であることが医療費の節約、元気な人が増えることはその抑制につながるので、健康であるために何かしらの援助、補助金があればと思う。
- ・買い物難民。買い物に行くのが大変。買い物支援をしてもらえると助かる。
- ・高齢者は、家から出ることが大切。
- ・みんな、家から出て、おしゃべりしたいとは思っている。
- ・家の近くに集まれる場所が必要。
- ・耳が聞こえにくい方は家に引きこもりがち。
- ・インターネットでの買い物は不安。老人会でも今後、スマホ教室をしていこうとしている。
- ・ガラケーからスマホに替えたい、使ってみたいという人もいると思うが、使い方がわからない。詐欺にあうかもしれないという先入観で、チャレンジできない人が多い。
- ・スマホの操作を学びたいが、一度習ってもまたわからない箇所がでてくる。そんな時に、気軽に聞ける人がいるといい。
- ・老人農園をする人が少なくなっている。市が老人農園を借りて、60代の方などに広報啓発を行ってみてはどうか。
- ・老人会加入者は老人農園を無料で使えるなどしたら、老人会に入るきっかけになるのではないかな。
- ・個人情報の関係で老人農園利用者の名簿がもらえないため、老人会として把握ができない。

(3) ほんによかね会【有償ボランティア】

期日：令和5年2月14日 12:30～

場所：旧 JA くるめ安武農産物直売所そらまめ

≪ポイント≫

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

- ・最初はラジオ体操の仲間から始まった。そこから発展して、食事の提供を始めた。
- ・男性は核になる方からの声掛けがあって集まった。

【参加して感じていること（効果）】

- ・一人暮らしの方が、毎回美味しかったと言ってくれるのが励みになっている。
- ・他の人と話す機会になっており、家にいるより、張り合いがでていい。この活動があるから、外に出ている。役割や仕事があることはいい。
- ・多世代が関わることで、若い世代の方達が高齢者の知恵を授かる場所でもある。自分より年齢の高い方と接することで、年を取っていくことへの心の準備にもなっている。
- ・ここの場は活動するだけでなく、スタッフがそれぞれに辛い思いを経験した時の癒しの場にもなっていると思う。
- ・日常の食事の提供の体制は、災害時の食事の提供にもつながると思う

【活動にあたっての課題】

- ・スタッフの高齢化もあり、体力的な衰えなどで、重い食材を運ぶのなどは大変。時間に追われるとストレスを感じることもある。地域で持続するためには若い世代の協力も必要。なるべく多くの方にスタッフとして参加して欲しい。
- ・運営費については、市からの補助のほか、利用者からの会費、食費、配達料を財源にしている。フードドライブや自宅からの持ち寄りも活用しているが、費用面が不足し厳しい。
- ・配達分を玄関先に置かず手渡しを徹底するなど、衛生面については特に気をつけている。

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

- ・若い方に来てほしい。若い方が既存の枠に入るの難しいので、若い方のグループを作って参加してもらうことが必要。新しい参加者が来ると、それまで思いつかなかった考えや、やり方も出て来るので、とても良いと思う。
- ・男性の加入のためにはグループからの勧誘と活動の目的が必要。
- ・続けていくためには、設備の整備や、市からの補助など、お金も必要。少しでも予算が増えたと助かる。
- ・支えてきた方が支えられる側になったときに、少しでも優待される仕組みがあると良い。

【コロナ禍の活動への影響】

- ・以前は食堂形式だったので地域の方が来てお話ししたりしていたが、コロナ以降はお弁当に変更したためコミュニケーションがなくなってきている。
- ・車での送迎の際に、他の人と一緒に乗ることを嫌がられる傾向にある。

《聞き取り内容》

【活動内容】

- ・高齢者の一人暮らしは栄養が不足するため、地域で高齢者の食の支援として食堂を始めた。
- ・最初は個人の家で始めた。2017年に今の場所（そらまめ）に移動。
- ・最初は週に2回（火、金）、現在は毎日（日曜日は除く）。
- ・料金は1食300円、1日100食程度（会員は300円、会員以外は500円）。
- ・作る人からも、作ってもらう人からも会費として月1000円をもらっている。
- ・100食の内訳は、障害者施設への提供が半分くらい。残りを販売している。
- ・現在18チームあり、チーム毎に各日の食事作りを担当している。
- ・参加者は50人以上 社会福祉法人からの事務的な支援があるのでやっている。
- ・各チームに材料費とは別に活動費として月に10,000円を渡し、メンバーへの分配はそれぞれのチームで決めている。（有償ボランティア）
- ・木曜日の夕食は男性が担当。
- ・コロナの影響もあり、昨年からは配達も始めた。配達の場合は配達料として別途100円。
- ・昼夜2食を求める方もいらっしゃる。（2食を一度に購入、昼と夜に食べる）
- ・衛生的に不安なこともあるので必ず手渡しにして、冷蔵庫で保管してもらっている。
- ・利用者は会員の方、利用者の追加は要望に随時対応している。
- ・事務的な部分は法人に手伝ってもらえているので助かっている。
- ・食材はフードバンクや自宅からの持ち寄り品なども活用し工夫している。
- ・準備や片付けは、障害者施設の方が担ってくれている。

【参加状況】

- ・基本は月に1回だが、他の班の手伝いに入ったり、複数のグループを掛け持ちしている人も。
- ・献立を考えて、下準備をしないと、1日の食事を担当するとしても、実質3日間かかっている。
- ・若い人は20代がおり、若い方々も少しは増えてきた。但し、活動参加者の高齢化が進んでいる。
- ・連絡方法も代表者はラインを使ったり、電話などでの連絡もあるが、基本的には月一で会って話し合いが主である。
- ・毎週土曜日、子供と一緒に参加している。

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

- ・最初はラジオ体操仲間から。（昔子ども会）ラジオ体操後には話とかしていた、そこから発展して、食事の提供を始めた。
- ・最初は、ご近所さんの集まりで、ラジオ体操をやっていた。そこで休むと、心配して声掛けに行くなど、お互いに助け合っていた。
- ・知り合いや近所の方に誘われて入った。
- ・時間があつたので、参加してみようかなと思った。
- ・男性は核になる方がいてそこからの声掛けで集まった。

【参加して感じていること（効果）】

- ・一人暮らしの方が、毎回美味しかったと言ってくれるのが励みとなる。
- ・家にいるより、張り合いがでていい。
- ・この活動があるから、外に出ている。役割や仕事があるのはいい。
- ・他の人と話すきっかけになっている。
- ・それぞれに家族を亡くしたり、辛い思いを経験した時の癒しの場にもなっていると思う。
- ・社会教育の場。異世代交流の場。
- ・若い方達が高齢者の知恵を授かる場所でもある。
- ・自分が活動に参加し、自分より高齢の方が、介護が必要な状況になったりしていくことを見ながら、自分が年をとったらどうなるのかを学ばせてもらっている。
- ・チームで協力して取り組むので、続けられていると思う。
- ・ボランティアというより、活動を通じて他の参加者に遊んでもらっているような感覚。
- ・災害時の食事提供にもつながると思う。

【活動にあたっての課題】

- ・参加して楽しいと思ったり、勉強にもなったが最近では体力的に厳しい部分もある。
- ・時間に追われてストレスになる。体力的な衰えも。キャベツ 5 個を運べない。
- ・楽しい反面、ストレスも感じる。我慢しているスタッフもいるのでは。
- ・スタッフの力量も様々なので、助け合っているが、作業が大変な時もある。
- ・なるべく多くの方に作る側で参加して欲しい。
- ・若い力とどう共存するかが課題。地域で持続するためには若い力は必要。
- ・市から補助金をもらっている。会費として 1000 円を徴収し、食費や配達料なども徴収してはいるが、それでも足りない。
- ・原価は 130 円 調味料やご飯代は含まない。フードドライブを利用したり、自宅からの持ち寄りもしているが足りない。
- ・衛生面は気にしている。配達分を玄関先に置いていかないように徹底している。

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

- ・若い参加者に来てほしい。新しい参加者が来ると、これまで思いつかなかった考えややり方も出て来るので、とても良い。
- ・若い人たちを入れるための方法。単独では馴染めない。若い方の集団をつくり参加してもらうことが必要。
- ・男性も集団が無いと既存の女性主体のグループには入りにくい。男性グループからの勧誘と活動の目的（集まってお喋りをするだけでなく、役割と目的をもって活動する）が必要。
- ・衛生面も気を付けなければならないので、設備をきれいにしたい。
- ・今は既存の設備を利用しているが、100 食作るためには、コンロや大きい鍋などの設備も必要。
- ・続けて行くためには補助金などお金が必要。1 食あたり、あと 100 円分子算が増えれば、かなり助かる。
- ・支えてきたスタッフの方が支えられる側になったときに、いくらかでいいので優待される仕組みがあると良い。

【コロナ禍の活動への影響】

- ・以前は食堂形式だったので地域の方が来てお話ししたりしていたが、コロナ以降は弁当に変更したためコミュニケーションがなくなってきている。
- ・移動支援を行っていたが、車での送迎の際に、他の人と一緒に乗ることを嫌がる傾向にあるなど、共存が難しくなっていると感じている。

【その他・自由意見】

- ・ほんによかね会の活動のような、住民が行うサービス（地域での食の支援など）にお金を払って欲しい。介護サービス費と比較すれば効果が大きい。
- ・高齢者も社会性をもつことが大切だと思う。
- ・高齢者は仕事・役割が必要。
- ・健康であること。生きがいがあること。

(4) さわやか大善寺宅老所よあけ【介護サービス】

期日：令和5年2月16日 13:30～

場所：よあけデイサービス

《ポイント》

【デイサービス利用のきっかけ】

- ・デイサービスの職員や、かかりつけの病院の先生からの勧誘・紹介をきっかけに参加。
- ・交通事故や転倒等で、怪我をした後に、家族やケアステーション、近所の人から紹介された。
- ・コミセンでやっている運動教室に参加して知った。
- ・入所施設の世話にならず、自宅で暮らしたい。デイサービスを利用する生活が良い。
- ・他のデイサービスも2～3件体験したが、雰囲気良かったからここに決めた。

【利用して感じていること（効果）】

- ・家に一人でいると、家族のことや自分の体調のことを考え込んでしまい、気分が沈むが、デイサービスに来ると気持ちが紛れる。できたら毎日来たい。
- ・友達ができた。デイサービスがない日でも、お互いに電話してお喋りしている。
- ・スタッフの方が親切で、優しい。リハビリや口の運動をさせてくれたり、いろんな相談に乗ってくれるので、不安が少ない。家族以外で相談できる人がいるのは心強い。
- ・入浴の時間や飲み物、毎日の座席なども融通してくれるなど、自由があり満足。
- ・車に乗れなくなったので、デイに来るのは送迎があるから助かる。

【デイサービスを利用していない時の日常】

- ・畑仕事、草取り、ごはん作りなどの家事をしたり、通院など
- ・家事は、家族がしてくれるので洗濯物をたたむくらいしか、していない。
- ・テレビをみて横になっている。
- ・足が悪いので家の中を散歩。買い物は週一回まとめていくようにしている。
- ・友人と集まってお話しをしたりしている。家族と同居の家は友人同士集まれないことも。

【今後、自宅で元気に安心して暮らしていくために必要なこと】

- ・自分で、運動をすること。ラジオ体操などの運動をすることで筋力もついた気がする。
- ・買い物の支援。インターネットは使えないので移動販売や配達などがあると良い。デイサービスに配達してくれると助かる。
- ・車に乗れなくなったので移動手段の確保が必要。タクシー券は助かっている。

【コロナ禍の影響】

- ・外出を控えていたが、最近は徐々に増えている。
- ・友達と会う機会、話す機会が減ったが、最近は集まれるようになってきている。
- ・耳が遠いので、話す人がマスクをしていると言っていることが分かりにくくて困る。

《聞き取り内容》

【活動内容】

- ・運動、体操、歌を歌う、入浴、リハビリテーション、マッサージ、ゲーム・脳トレ、みんなとおしゃべり、お昼ご飯。
- ・カレンダーづくり（各自・毎月）、シニアアート展に出品する作品づくり ※バルーンのオブジェ
- ・紅葉、藤棚、桜、買い物、果物狩り、文化センターなどに連れて行ってもらっていた。外出できると楽しい。
- ・みんなで出かけたり、お菓子作りをしたり、家ではできないことをデイサービスでできる。
- ・毎月誕生会があり、イベントが楽しい。
- ・ボランティアで来ており、利用者と一緒におしゃべりしたり、運動したりしている。

【参加状況】

- ・週2～3回。
- ・できたら毎日来たい。
- ・20年ぐらい利用している。

【デイサービス利用のきっかけ】

- ・知り合いのデイサービス職員から遊びに来ないかと誘われ、それからボランティアで来ている。
- ・病院の先生から、デイサービスに行ってみたらどうかと勧められた。
- ・近所の人から誘われた。手続きもしてくれたので助かった。
- ・転倒して骨折、家族が職員として働いていたので誘われた
- ・転倒して怪我、娘から紹介された
- ・交通事故にあい、大善寺宮本のケアステーションの方から紹介された
- ・デイサービスに来る前は、ゆうゆうやコミセンの活動に参加していた。コミセンでやっている、運動教室に参加して、このデイサービスを知った。
- ・施設のお世話にならず、デイを利用し、家で生活したい。
- ・他のデイサービスも2～3件体験したが、雰囲気良かったからここに決めた。デイサービスを決めるときは、実際に見学や体験をしてみるのが良い。

【利用して感じていること（効果）】

- ・家に一人でいると、家族のことや自分の体調のことを考え込んでしまい気分が沈むが、デイサービスに来ると気持ちが紛れる。
- ・家だとテレビを見て横になってばかりだが、ここだと人と話ができる
- ・家に一人でいるより楽しい。
- ・友達ができた。デイサービスがない日でも、お互いに電話してお喋りしている。
- ・デイの利用者は、自分のことより、他人の心配をする人が多く、優しい方が多い。
- ・スタッフの方が親切で、いろんなに乗ってくれるので、不安が少ない。
- ・スタッフが優しい。利用者にはいろいろ意見を言う人もいるがその人にも優しい。
- ・家族以外で相談できる人がいて心強い。
- ・デイサービスのイベントがあり、自分は足腰が悪いから行くのをやめようとしたが、他の利用者やスタッフさんが誘ってくれたおかげで、一緒に行けて楽しかった。
- ・運動（口の運動を含む）ができる
- ・毎回違う人と隣になって、知らない人と友達になれるように食事の席も変えてくれる。お昼ご飯がおいしい
- ・お茶の時間の飲み物もコーヒー、お茶など自分の飲みたいものを出してくれる。
- ・入浴も他のところだと5分だけと時間が決まっているが、自分の入浴時間に合わせてくれる。
- ・よそだと「ダメ」と言われることが多いが、ここには自由がある。
- ・車に乗れなくなった。デイに来るのは送迎があるから助かる。

【デイサービスを利用する上で、困ったこと】

- ・特になし。週に3日しか来られないことが困る。毎日来たい。

【デイサービスを利用していない時の日常】

- ・畑仕事、草取り、ご飯を作るなどの家事をしている。
- ・家族が家事をしてくれるので、洗濯物をたたむだけしかしていない。
- ・病院に通っている。
- ・一人暮らしで足が悪いので週に一度まとめて買い物に。近所のスーパーだが1時間かかる。最近買ったものをかごから袋に入れて、カートに移して運ぶのが大変
- ・足が悪いから外出はできないので、家の中を散歩している
- ・テレビを見て横になっている
- ・一人住まいの方：家に友達が集まってお話をして帰る。
- ・家族がある人：家には家族がいるから友達同士集まらない。
- ・ヘルパーさんが来てくれる。

【今後、自宅で元気に安心して暮らしていくために必要なこと】

- ・自分で運動している。
- ・毎朝ラジオ体操とデイで教えてもらった運動をしている。筋力がついた気がする。
- ・移動販売とかがあってくると良い。今もあるが自分の家のところには来てくれない。
デイサービスなどに来てくれて、施設で注文をとって、ここに配達してくれたら本当に助かる。
- ・人が集まれるところがあると良い

【コロナ禍の影響】

- ・手洗い、うがい、洗濯をこまめにやっている。
- ・外出を控えていたが、最近は徐々に増えている。
- ・友達と会う機会、話す機会は減ったが、最近は集まれるようになっている。
- ・マスクはしている。耳が悪いので（口元が見えないと）人の言っていることが分かりにくい。

【その他・自由意見】

- ・足腰が悪くなって、ひとりでは買い物にいけない。
- ・けがをしてすぐは、看護師さんが買い物も手伝ってくれたが、今は手伝ってもらえないので大変。
- ・病院などに移動するのが大変
- ・バスがなくなったから、買い物に行く手段がないが、コミセンのタクシー補助は助かっている。
病院にはそれで通っている。
- ・自分で料理するのは大変。タクシヨクなどの素材を届けてもらうのも、そこから調理しないといけ
ないから大変。できたものを提供して欲しい。（でもお弁当は飽きる）
- ・インターネットは使えないのでネットでの買い物はできない。（全員）

(5) 認知症カフェ YYY【認知症カフェ】

期日：令和5年2月18日 10:00～

場所：友カフェ

《ポイント》

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

(運営側)

- ・コロナで自粛が続いており、人が集まれるところが無いのは良くないと思った。

(利用者側)

- ・認知機能が心配になっていたときに、息子が市のホームページを見て連れてきてくれた。
- ・もともと民間のジムに通っており、一緒に通っていた参加者の方から紹介してもらった。
- ・知り合いの民生委員・児童委員から紹介してもらった。

【参加して感じていること(効果)】

- ・家では家族とだけ一緒にいるので、ここに来るのは息抜きになって楽しみ、生活のリズムになっている。
- ・体を動かすので楽になるし、怪我した後のリハビリと併せて、ここでの運動も効いているような気がする。
- ・認知症のことや運動のことなど専門の方から話が聞けるのが良いと思う。

【活動にあたっての課題】

(運営側)

- ・認知症カフェの開設講演会には70名くらいの参加者がいたが、認知症予防の必要性を自分のこととして捉えきれていない。
- ・他の地区でも開設したいと思っているが、会場の確保が難しく月1回程度の開催しか見込めないことが課題。

(利用者側)

- ・利用者の人数が多いところは強い人が出てきたり、疎外されたりすることもあるので嫌。
- ・車の運転が不安。免許返納をした方もいて、カフェまでの交通手段があると助かる

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

(運営側)

- ・認知症予防の必要性についての周知や、参加するためのきっかけづくりが必要。
- ・こういった少人数のカフェをあちこちに増やしていけると良いと思う。
- ・まずは、月1回ぐらい開催して、その後週1回ぐらいの予防の必要性を伝えていきたい。

(利用者側)

- ・小さい所がたくさんできると良い。参加者の規模は5人ぐらいがちょうどいい。
- ・自宅からの距離は、近い所がよい方と、近所は知り合いが多くて行きにくいという方がいるが、通いやすいところにたくさんあると選択できるので良い。

【コロナ禍の活動への影響】

- ・マスク、消毒をするようになった。距離をとるようになった

《聞き取り内容》

【活動内容】 一般の方向けのカフェ

- ・きっかけはコロナでの外出自粛から。最初に一般の方を対象にしたカフェを始めた。2年半くらいやっている。
- ・火曜日から金曜日は一般の方を対象としたカフェとして営業。10時から17時まで。
- ・一般のカフェの利用者は近所の人が3分の1、知り合いが3分の1、教え子（運営者が元教員のため）が3分の1。
- ・相談とか話し合いなどに利用されている。

【活動内容】 認知症カフェ

- ・認知症カフェの開設講座を受講し、人の集まる場が必要だと思ったので、令和4年6月に開設。
- ・土曜日10時～12時を認知症カフェとしている。
- ・活動内容は、運動教室での軽運動、パズルなどの脳トレ、講習（専門家からの）、相談参加者のハーモニカ演奏など。

【参加状況】

- ・毎週参加（当日インタビューをした利用者3名全員）

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

（運営側）

- ・コロナで自粛が続いていたので、人が集まれるところが無いのは良くないと思った。

（利用者側）

- ・認知機能が心配になっていたときに、息子が市のホームページを確認して連れてきてくれた。
- ・もともと民間のトレーニングジムに通っていたが、閉鎖になり、一緒にジムに来ていた参加者の方から紹介してもらった。
- ・知り合いの民生委員・児童委員から紹介してもらった。
- ・誰か背中を押してくれる人がいると来やすいと思う。

【参加して感じていること（効果）】

- ・みんなで話をして、楽しい。
- ・人と人との出会いが嬉しい。
- ・家で家族とだけ一緒にいるのは大変、息抜きになっている。
- ・ここに来るのが楽しみ、生活のリズムになっている。
- ・こちらは和気あいあい（よその高齢者の集まりでは、そうではないところもある）。
- ・家でぼーっとしているくらいなら、ここに来た方が、気がまぎれて良い。
- ・体を動かすので楽になる。
- ・肩の手術後、リハビリのために動くようになった。ここでの運動も効いているようだ。
- ・専門の方から話が聞ける。

【活動にあたっての課題】

(運営側)

- ・開設講演会には70名くらいの参加者がいたが、(認知症の問題を)我がことと捉えきれていない。

(利用者側)

- ・いっぱい人がいるところは嫌。他のところのケースだが、いじめのようなことがあったりする。
- ・人数が増えると強い人が出てきて、そういったところも心配。
- ・車の運転も心配なので、交通手段があれば助かる。
- ・免許返納をしたので、近場にたくさんあるとありがたい。

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

(運営側)

- ・大城地区でも開設したいと思っているが、会場の確保が難しく月1回程度の開催しか見込めないことが課題。
- ・まずは、月1回ぐらい開催し、その後、週1回ぐらいの予防の必要性を説いていきたい。
- ・こういった少人数のカフェをあちこちに増やしていくと良いと思う。
- ・利用者5、6人がベスト、最大で10名くらいで。
- ・認知症予防の必要性についてアピールが必要。
- ・カフェに来るためのきっかけづくりが必要。
- ・体操のCDとかをもらえたらありがたい。
- ・包括支援センターにも協力していただくとありがたいと思う。

(利用者側)

- ・免許は返納するし、足も弱ってくるので、そこまで来るための交通手段が必要。
- ・認知症カフェの場所を増やしていくことが必要。
- ・こじんまりとした所がたくさんできることが必要。今ぐらいがちょうどいい。
- ・自宅近所は知り合いが多くて行きにくい。

【コロナ禍の活動への影響】

(利用者側)

- ・マスク、消毒は、みんな気をつけている。
- ・お互いの距離は開けるようになった。

【コロナ禍で困ったこと】

- ・マスクをするようになった。距離をとるようになった。
- ・ワクチン4回接種したが、接種することで体調を崩したりしないか心配もある。
- ・今は、特に外出自粛はせずにどんどん出るようにしている。(全員)
- ・でも個人的な団体旅行などはまだ我慢している。

【その他・自由意見】

- ・自転車運動を自宅で行っているが、一人だとなかなか続かない。
- ・ジムに30数年通っていた。
- ・買い物には家族が連れて行ってくれるので、今のところ大丈夫。
- ・スーパーなどがセルフレジに変わってきて苦労している。
- ・近所にコンビニがあればと思う。
- ・金融機関のATMでも苦労している。後ろに人が並ぶと焦ってしまう。
- ・通信機器はスマホを利用している。変えたくなかったが家族に変えられてしまった。
- ・LINEも利用しているが、ネットでの買い物は怖いのでしていない。
- ・別途ハーモニカクラブに通っている。文化祭などに参加。そこには12人から13人が参加している。男性も5人ほど来ている。目的があれば男性も参加するのではないか。ジムやゲートボールなどにも男性は来られている。
- ・要支援2のためデイケアにも週2回通っている。そこは送迎がある。
- ・デイケアでは時間単位での運動やハーモニカを吹いたりしている。

(6) 田主丸美術協会【文化サークル】

期日：令和5年2月20日 10:00～

場所：水分校区コミュニティセンター

《ポイント》

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

- ・子どもの頃に絵を描いていて、子育てが終わってまた絵を描きたいと思った。
- ・展示されている作品を見て、連絡を取り、入らせていただいた。
- ・絵画展を見に行った時に知り合いがいて、誘ってもらった。
- ・もともと興味はあったので、田主丸の有線放送の紹介で、始めてみようと思った。

【参加して感じていること（効果）】

- ・共通の趣味の人と出会いともだちができた。話があって楽しい。
- ・一人では外に出ないが、みんなと一緒にだとスケッチに遠くまで出かけることができ、運動にもなる。
- ・自分ひとりだと気づけないことがあるが、一緒に集まって活動することで皆の意見を聞くことができ、新たな気づきがあり、とても参考になっている。
- ・絵の構図や色使いを考えるので、とても頭を使う。

【活動にあたっての課題】

- ・活動する人数が減り、会員の高齢化が進んでいる。
- ・美術協会というと、敷居を高く感じる人が多く、入ることに遠慮される。
- ・退職する年齢があがり、70歳近くまで仕事をする人が多くなっているため、誘いづらい。
- ・以前は教室形式だったため、初心者でも入りやすかった。絵画教室の先生が高齢になり、教室がなくなった。何をどう描いていいかわからないので入るのを辞める方がいた。
- ・絵を展覧できる場所や期間に限られる。

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

- ・会員募集については知り合いへの声掛け、ギャラリー展のパンフレットへの記載、文化祭の時の案内等を行い、久留米市外からの参加者も受け入れている。
- ・指導者がいるかどうかは、活動を始めるきっかけとして重要なポイントであり、絵画教室があれば誘いやすし、自信がない方も入りやすいと思う。
- ・多世代で作品をやり取りする機会があるといい。今の若い子はアニメ的な絵を上手に描いている。お互い良い刺激を受けるのではないか。
- ・スマホを使っている会員も多いので、ツイッターやインスタグラムなど、活動をSNSで発表してもいいのではないか。
- ・展示会では、会員ではない人の作品も展示できるようにして、入会につながれたらいいのではないか。

【コロナ禍の活動への影響】

- ・総会なども、集まらずに書面で行った。
- ・会場自体を貸してもらえず、発表する場がなくなった。

《聞き取り内容》

【活動内容】

- ・始まりは、美術を専門とする人達の集まりで美術家協会として発足したが、その後、一般の方も受け入れるようになり、田主丸美術協会として40年ほど活動している。
- ・現在は17名程度で活動を行っている。
- ・会員の中には、全国規模の展覧会に出品する人もいて、国立美術館などで展示された作品もある。
- ・田主丸美術協会としても、活動の中で展示を行っており、展示会に向けて作品作りをしている。
- ・協会として、絵画教室を実施していたが、講師の高齢化等により、教室の運営ができなくなったため、自主グループを作り勉強会等を行っている。
- ・自主グループでは、月2回程度活動している。
- ・スケッチで外出するときは、朝9時に出て15時頃に帰ってくる。
- ・スケッチは太宰府などにも出かけることもあり、運転できる会員の車に乗り合わせて行っており、ひとりだと遠出しにくいですが、他の会員と一緒にだからできる。
- ・作品の大きさによって、作成にかかる期間は変わる。
- ・コロナになる前は、日帰りで、バスを貸し切ってスケッチ旅行や美術館巡りなどに行っていた。
- ・そよ風ホールなどで、ギャラリー展を行い、春と夏、秋の文化祭に合わせ作品を作っている。
- ・活動費は、会員からの会費（年会費4,000円）でやりくりしている。
- ・スケッチ旅行などで、会費ではまかなえない分は、その都度手出ししている。
- ・久留米市外からの参加者も受け入れている。

【参加状況】

- ・ぽっぼの会（JR田主丸駅ふるさと会館、毎月第2第4金曜午前中2時間程度、3～4名程度）。
- ・づくぼの会（田主丸アリーナ毎月第2第4水曜午後2時間程度、10名程度）
- ・スケッチに出かけたり、室内で絵を描いたりしている。

【活動の立ち上げや参加したきっかけ】

- ・子どもの頃に絵を描いていて、子育てが終わってまた絵を描きたいと思った。
- ・スケッチをしていたら絵描きに出会い、誘われて描くようになった。
- ・本格的に始めたのは退職してから。趣味を活かしたくてアトリエを建て、東京に出品するようになった。
- ・展示されている作品を見て、連絡を取り、入らせていただいた。
- ・絵画展を見に行った時に知り合いがいて、誘ってもらった。
- ・もともと興味はあったが、田主丸の有線放送で、始めてみようと思った。

【参加して感じていること（効果）】

- ・共通の趣味の人と出会い、友達ができた。
- ・絵を描くという共通の趣味があるので、話が合う。
- ・集まると人と話せて、意見を聞いて楽しい。
- ・一人では外に出ないが、みんなと一緒にだとスケッチをしに遠くまで出かけることができる。
- ・スケッチに出かけるので、運動にもなる。
- ・自分ひとりだと気づけないことがあるが、一緒に集まって活動することで、皆の意見を聞くことができ、新たな気づきがあり、とても参考になっている。
- ・趣味があることは、良いことだと思う。
- ・展示会という目標があるから、制作活動を頑張っている。
- ・絵の構図や色使いを考えるので、とても頭を使う。
- ・コロナ前は、展覧会の開始時や終了時にパーティーなどを行い、それも楽しみのひとつだった。

【活動にあたっての課題】

- ・活動人数が減っている。
- ・会員の高齢化が進んでいる。
- ・美術協会というと、敷居を高く感じる人が多く、入ることに遠慮される。
- ・仕事を退職する年齢があがっており、70歳近くまで働く人が多くなっているため、誘いづらい。
- ・退職が近い方に声をかけても「今更、美術には」と断られることが多い。
- ・以前は教室形式だったため、初心者でも入りやすかった。絵画教室の先生が高齢になり、教室がなくなった。何をどう描いていいかわからないので入るのを辞める方がいた。
- ・指導者がいるかどうかは、活動を始めるきっかけとして、重要なポイントだと思う。
- ・絵画教室ができれば誘いやすし、自信がない方も入りやすいと思う。
- ・教室型といったきっかけがあれば、これまで美術等取り組んでいなかった方も活動に新たに参入しやすい。教室がない場合、協会を周知しても新規加入につながりにくい。
- ・現状、展覧会などで絵を展覧できる期間は2日。絵を飾る場所、展覧会を行なえる場所を提供していただきたい。1週間は飾れるようにしたい。
- ・展覧会を行う場所が限られており、展示期間も短くなっているため、せっかく作成しても物足りない。場所があっても、高い。
- ・以前は、文化協会からの補助金があったが、今ではそれもなくなった。

【今後、活動を続けていく、広げていくためのポイント】

- ・知り合いに声をかけている。
- ・ギャラリー展のパンフレット等で、会員募集の案内をしている。
- ・文化祭の時に（会員募集の）案内を出している。
- ・久留米市外からの参加者も受け入れている。
- ・多世代で作品をやり取りする機会があるといいのでは。今の若い子はアニメ的な絵を上手に描いている。お互いいい刺激を受けるのではないか。
- ・スマホを使っている会員も多いので、ツイッターやインスタグラムなど、活動を SNS で発表してもいいのではないか。
- ・展示会では、会員ではない人の作品も展示できるようにして、入会につながれたらいいのではないか。

【コロナ禍の活動への影響】

- ・活動しにくくなった。
- ・総会なども、集まらずに書面で行った。
- ・会場自体を貸してもらえず、発表する場がなくなった。